



## 目人の婦

私の町でも校内暴力、自殺

が報じられ、これはもはや都会や有名校の話ではなくなってきた。その子どもたちの悲惨な状態を見る時、ふと「私の家に対する熱心さが、私の家をくいつくした」という聖書の言葉を思い出した。

周囲の善意、いちずな熱心さが、とうとう子どもを疲れさせ、生きるのももうイヤという状態に追いやっているのではないか、と考えさせられる。そこにあるのは子どもの将来であり、気にかかっているのは子どもの明日のことだ

あり、「今」という中に、子どもの年齢に応じた人格、愛らしさ、子どもの要求にそって、心も体も満足して十分に生きるためのものが、社会にも家庭にも欠けているような気がする。

あの高校、大学にという未

## 子供は未来の預言者

藤屋 紀子

のたびに、その産声を聞いた  
びに、子どもが私たち二人の  
ものではなく、二人を結び合  
わせる愛そのもののような気  
がし、大きな愛を感じたのを  
覚えている。

生まれたばかりの子どもに

大きな愛や生きる喜びを感じ

来のために三歳の時から幼稚  
園が準備されるけれど、三歳  
という人格は忘れ去られてい  
る状態に子どもは置かれ、そ  
の中で、神の創造のエネルギー  
は窒息しそうである。創造

の中心は神であり、神こそ愛  
そのもののお方であるのに！  
私たちが婦も子どもの誕生

させる、そのような力がある  
のなら、成長するに従い、そ  
の持っている愛も力も背だけ  
と同じように成長していいは  
ずではないのか、イエススの  
少年時代のように。

けさ、食卓のミニパンと前  
日の残りのキャベツとセロリ  
のスープを前に、長男は「神

様おいしい食事をありがとう  
ございました。この食事を作  
った人に感謝して食べるおち  
からを僕にください。アーメ  
ン」と祈ってくれた。朝食の  
準備は昨夜のスープを暖め、  
パンをオープンに入れただけ  
の私は大いに恥じ入りながら  
も、本当にうれしかった。

マリッジ・エンカウンター

創始者のカルボ神父様は「子  
どもは未来の預言者です」と  
いわれたが、私たちも子ども  
から啓示を受け、日々の生活  
の中で、子どもと共に、子ど  
もによって、また新しい人生  
を歩み始めたいと思う。そし  
て教会は、苦しんでいる子ど  
も、窒息しそうなる子どもの力  
になれたらいいのと祈って  
いる。